



共に歩んだ40年

中野 信男
カナンの園保護者会会長

「他人の荷物を持てば自分の荷物が軽くなる」。40年の歳月の中で、カナンの園から教わったことである。

40年前、障がいの子どもを抱えて悩んでいた時に、県北に最初の障がい者施設ができた時に、若いクリスチヤンの青年たちが中心になつて立ち上げると新聞で報じられていた。それがカナンの園奥中山学園だった。障がい児を育てる親たちにとって衝撃の朗報だった。

早期訓練、早期治療がいいと聞いていたので、幼い我が子の入園をお願いした。若い職員が多く、笑顔と熱気、活気に満ちていた。入園式に覚悟して行つたはずなのに、子どもを残した学園の窓明かりを眺めながら離れたあの時。その辛さは今でも忘れられない。

カナンの園に行き、初めて私たち（子ども）の理解者に出会つたとの思いだつた。最初はものを語らなかつた親たちも、園長や職員の献身的に働く姿、子どもを支援、応援してくださつている方々のお

大切にする姿、そして子どもの元気な顔を見て、だんだん打ち解けはじめ、「親の会」を設立した。

学園祭では楽しく話しながら夜遅くまで焼き鳥の串刺しをしたり、親たちで演劇をしたことが今でも思い出される。

子どもの成長と共に親も成長し、研修会を重ね、県内はもとより北は北海道の「おしまコロニー」から南は長崎の「コロニー雲仙」まで見学に行つた。また、苦労話だけでなく楽しい話題づくりをしようと親子旅行で札幌雪まつり、ディズニーランド、沖縄にも行つた。

子どもの成長に伴つて高等部の養護学校から成人施設、各種事業所、ケアホームまで子どものために、親たちの希望を実現してくれ、この安心、安全な施設のおかげで私たちはそれぞれの地域で普通の生活をさせていただいた。これも法人、職員、そして教会関係者ははじめ、多くの支援、応援してくださつている方々のお



111

No.111
発行日／2013年11月15日
編集／社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
<http://www.canaan-jp.net>
E-mail: honbu@canaan-jp.net

は人づくりである」といわれているようには、若手、そして次期管理職の育成が急務だと思っている。そしてもっと外向きになつていくことを望んでいる。
皆さんから生かされていることを忘れず、初心に帰り、謙虚さ、言葉だけでなく行動で、そして職員が希望を持って働ける場にして、いいサービスができるこれから先10年は明るいと思う。

9月に小さき群の里保護者会でカナンの園40周年を記念して旅行を行つた。総勢122名の参加者であったが、親は19名だけだった。親たちの歩く姿を見て、40年の歳月を感じ、また子どもたちも殆どが多くの支援が必要になつてきていて、複雑な思いにかられた。考えてみれば當時10歳の子どもが50歳に、40歳の親が80歳になつていて。子どもが高齢になり、現在のケアホームでの生活が困難になつた時にどこで暮らせばいいのか、これが親たちの話題だった。障がい者のための老人ホームの実現が親たちの願い、夢だつた。カナンの園と「共に歩む」道はこれからも続していく。

陰だと感謝でいっぱいである。親としてカナンの園と共に歩んだ40年はかけがえのないものだった。

これからカナンの園は今まで大切にしてきた「目にみえないものの大切さ」を伝えながら謙虚さと感謝の気持ちを忘れないこと。そもそも40年間の中でも薄らいできたような気がする。そして「経営

「カナンの園商品販売部門 「カナン市場」いよいよ開店!

となんカナン施設長
菅生 周一

子類などです。

カナンの園の商品(1)を括して取り扱う「カナン市場」がスタートしました。これまで、基本的にはそれぞれの事業所毎に行っていた商品の販売を、一つの窓口で注文を受けてお客様にお届けする形です。かねてからお客様の声としてあった「どこに注文すればいいかわからない」「違う事業所の商品であっても、同じカナンの園だから一緒に注文できればいいのに」というものに応えられることになりました。何を目的とし、どんなことが期待されるのか、その内容を紹介します。



となんカナンカフェ売店

●——問い合わせ
多機能型事業所 となんカナン
〒020-0834
盛岡市津志田2丁目16-91
カナン市場
TEL 019-639-3120
FAX 019-637-2601
E-mail / tonan-c@canaan-jp.net
<http://canaan-jp.net/>



ですが、各々の事業所でさまざまな製品を製造するため、一ヵ所に集約するところが難しく、お客様の立場からは、同じカナンの園の商品なのにどうして一度に注文できないか、という疑問がわいてくる事態を招いており、それを解消したいとの願いがありました。

7年越しの願いの実現

カナンの園の製品の中で、外部への販売のルートが確立している主な商品は、カナン牧場のパン・ジャム類、ヒップ工房の焼き菓子やちきゅうせつけんシリーズの石けん類、小さき群の里のひつじ工房アドナイ・エレの羊毛加工製品・シャロームのみことばせんべいなどのせんべい・焼き菓子類、そしてとなんカナンの焼き菓子類、

今回開始する「カナン市場」のように、カナンの園商品の取り扱い一体化に関しても、7年ほど前から持ち上がりでは消えていました。その重要性を認めながらも実行する段階で各事業所の抱える個別の事情等がその実施を阻んでいたのです。今回、一本化できた背景には、それぞれの事業所の持つ販売ルートを残してスタートしたことがあります。長く製品づ

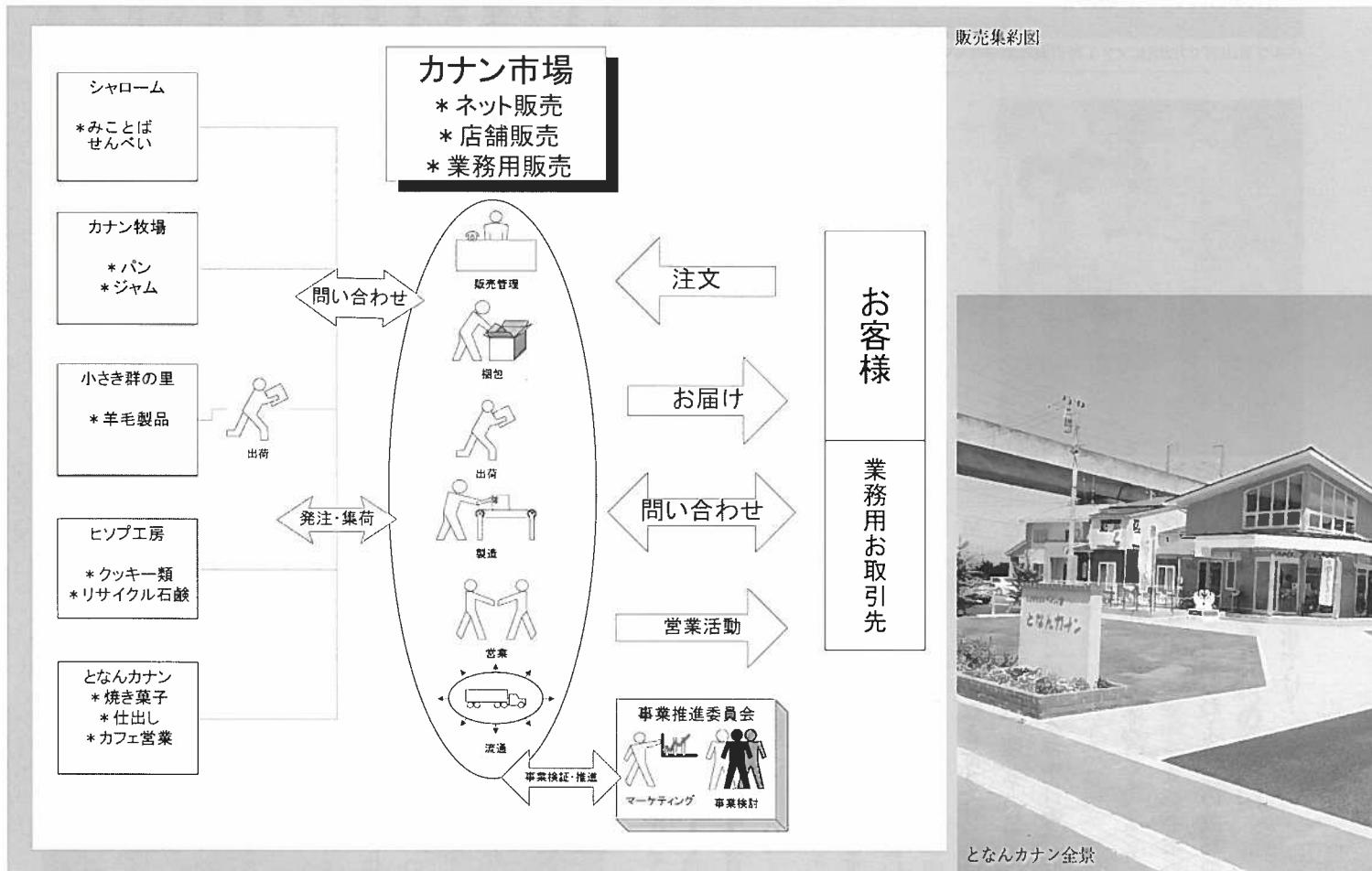
くりをしてきた中で強いつながりを構築しているお客様、また売上げ向上に向けた販売促進により獲得した販売先などもいます。さらには販売や発送等、利用する事業所が継続し、なおかつ一体的に販売する場所を設けるという形でスタートすることになりました。

事業の内容

実施場所はとなんカナン事業所とし、A型事業として専任の職員を配置して臨みます。この事業は、従業員の方々と雇用契約を結び、事業を進めていきますので、収益を確保することが大切な要素となります。当初計画していた事業規模に比べると小さな形でのスタートとなりますが、初年度は法人全体から、主に経済的な支援を受けながらの運びにならざるを得ないと考えています。

多くのお客様との出会いが与えられ、事業として成り立せていくことが大切なことです。なにはともあれ集約化が図られたことは大きな前進になります。

まずは着実に歩み出し、皆様に商品をお届けすることに励みたいと願つていています。



事業に込める願い

この事業は、単に商品を販売することに留まりません。商品がつくられた経緯をはじめとして、商品に込められた物語をお届けしたいと願っています。目的の一につい、経済的な成果を得て利用者・従業員への工賃や給料に確実につなげることができます。ですが、皆様と作り手との懸け橋となり、相互交流の機会を提供することも大きな役割の一つと考えています。

カナンの園では、この度のカナン市場の実現に直接関わった5事業所を中心とした事業推進委員会を設置し、経済事業としての確立を推し進めながらも、多層的な見地を投入した事業展開の進め方を考えているところです。

カナン市場は、カナンの園全体の事業として発展させ、さらには他団体の商品の取り扱いや地域の産業との連携なども視野に入れたいと考えています。障がいを持つ方が地域で生きていくためには、関係者はもちろんのこと、地域社会全体が元気に、生き生きと暮らしていくことを大きな柱として掲げています。

(1) 文中の「製品」と「商品」を使いますが、「製品」は製造された品物、「商品」は売買の目的で取り扱う品物、という形で使い分けします。

(2) A型事業所においては雇用契約締結での働きになるため、カナンの園では「利用者」ではなく「従業員」と呼称しています。

みんなの力十分



ベルフ青山店で月2回ヒソップ工房の販売をさせていただいている。



学童クラブの子どもたち。

■
違いを認め合い、
助け合い、
共に生きる社会に

生協は、消費者一人ひとりがお金（出資金）を出し合い組合員となり、協同で運営・利用する組織です。「こんな商品が欲しい」「こんなサービスがあると便利」のように、暮らしの中から生まれるさまざまな「願い」を、組合員が力を合わせることを実現しています。私たち一人ひとり、年齢も性別も価値観も異なります。その違いを認め合い、助け合い、共に生きる社会に

に生きる社会・地域を目指し、モチベーションがあるだけでなく、ふれあいやぬくもりのあるコミュニティの場として、Bellf青山が拠点となり、ヒソップ工房さんをはじめ、障がいを持つ方々と一緒に取り組み、実現していきたいと思います。

（いわて生活協同組合
Bellf青山 店長 照井修治）

楽しい交流

カナンの園シャロームさんは奥中山学童クラブが創立した平成12年から毎年交流させていただいており、

年間の行事を通じて一緒に参加できる学童クラブは県内から見ても珍しく、奥中山ならではの貴重な交流で大変嬉しく感じております。

季節ごとに行われるクリスマス、正月などにはいつもご招待してもらい、楽しいイベントと共に食を通じ

な、がら交流させていただいております。
またさくら市などの一緒に行うイベントは学童クラブに来ている子どもたちからも好評で、いろんなゲストや催しは、とても楽しみなイベントとなっています。

（奥中山学童クラブ 中村大介）

願いが叶うとしたら？

シャローム開所からのメンバーで、

今はウイズで働いているT・Mさんに聞きました。

Q：願いが叶うとしたら？

M：彼氏が欲しい！ ドライブして海を見に行きたい。結婚もしてみたい。

Q：好きなタイプは？

M：私、前にYさんと付き合ってい

たんだよ。優しくて、瘦せている人。

Q：ええっ？！ びっくり！ 今、好きな人は？

M：それは……です。

Q：他には？

M：貯金して、おねえさんの故郷の中国に行つてみたい。

Q：仕事の事では？

三愛学舎の芸術活動

それは生徒たちの生命力がほとばしる表現・創作活動の現場です。本科3年生のN君に話を聞きました。

「何をつくっても自由だから芸術の授業は好きです。中学の時は授業のテーマがあつて描きやすかつたけど、三愛では、はじめは何を描いていいかわからなくて、なかなかペンがはし



ペットボトルのラベルはがし作業。楽しいですよ！

君、何枚も描いているうちに、自分は絵が苦手だと思っていたN君、何枚も描いているうちに、自分は結構絵が描ける！と自分の力に気がついたようです。来年の2月に予定されている卒業展が楽しみです。

（三愛学舎
久保友基）

「今は卒業展に向けて、動物の模写をやっています。何枚か積み重ねて、もっと絵が上手くなるように頑張りたいです。先輩の上手な作品を見ると、自分もそうなりたいと思います」

自分は絵が苦手だと思っていたN

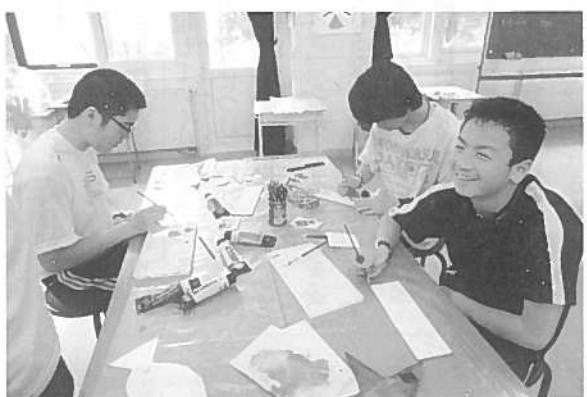
君、今は頭に浮かぶようになりました」

「何人かで机を囲んで行うのは、他の人から見られてはずかしいけど、他の人がなにを描いているかを見るのは、楽しいです」

「今は卒業展に向けて、動物の模写をやっています。何枚か積み重ねて、もっと絵が上手くなるように頑張りたいです。先輩の上手な作品

を見ると、自分もそうなりたいと思

います」



仲間の作品を見ながらみがきをつける。



毎日ながめたり話しかけたりしています。

（ののさわ
土屋恵美子）

わたしのえび

わたしはえひをかっていります。
とてもかわいいです。
このまえたつひしました。
つちやえみこ



8歳の頃学園の誕生会。ごちそうもまわりのことも気になっていました。

（保護者 丸田桂）

これから息子は、将来の生活に向けて訓練を重ね、社会に飛び立つでしょう。親の願いは大きく大きく膨らみますが、今は、息子の笑顔を見ながら、息子に合う将来像を描いて、それが現実になるよう親として努力していきたいと思います。



17歳。大きくなっても誕生会はやっぱりうれしさ格別です。

息子・カナンへのおもい

私の息子は、三愛学舎本科2年生で、オーロラ寮で生活しています。

息子が保育園に通っている頃から、奥中山学園（短期入所や日中一時）を利用させていたゞくようになり、かれこれ十数年が経ちました。その頃から、「高等部は三愛学舎・奥中山学園での生活」が息子に合っていないのではないか……と希望してきましたが、今では現実となりました。ずっとカナンにお世話になりたいと思つてきたのは、カナンの方々が、息子を愛し、成長を一緒に喜んでくれ、自然で家族的なあたたかさで接してくれるからだと思っています。

（ののさわ
土屋恵美子）

今から14年前、ヒソップ工房の定員を増やし、新たに利用することになつたうちの一人、Tさんとの付き合いが始まつた。ちょうど私が三愛学舎からヒソップ工房に異動した時期と重なる。

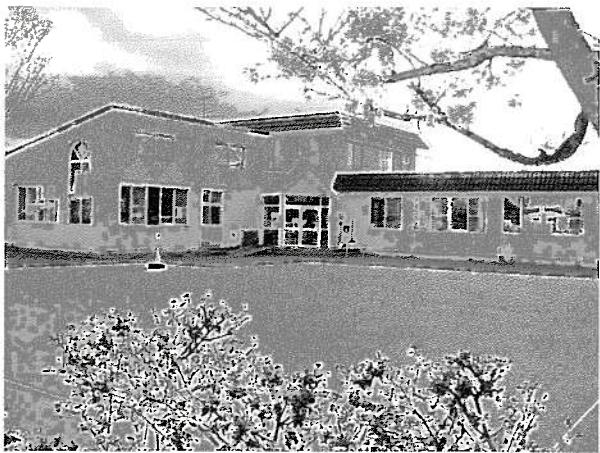
Tさんは複雑な家庭環境の中で育ち、養護学校を卒業後、数年間、ある畜産業に就労していたが、その労働環境が厳しく、福祉的就労の場を求めてヒソップ工房に通うことになった。それまでの環境と違う、盛岡の街中でのグループホーム

そんな歳月の流れの中で、離れて暮らしていた最愛の母親が亡くなつた。今まで築いてきたものが崩れしていくように自信のない姿が見られるようになつた。そんなTさんが前向きに暮らせるように、ホームの担当者やヒソップ工房の仲間たちの支えや励ましもあり、次第に「就職して一人暮らしをしたい」と新たな希望を話してくれるようになつていった。ヒソップ工房の利用者会である自治会の役員への立候補や外部活動への積極的な参加に

取り組んだ。大規模な農場での仕事やクリーニングの仕事、ホテルでの食器洗浄作業など、さまざまな職種や職場での体験を重ねながら、就労へのイメージと一緒につくり、ハローワークや就職相談会で職探しをしたこと也有つた。くじけそな様子のTさんに、「大丈夫？ つらくない？」と聞くと「つらいけど…俺、頑張るよ」と話した。その姿を傍らで見ながら、励まし、時には背中を押すそんな日々を送つてきました。

しかし、そのような体験を積み重ねる中で、次第に就労そのものが目的というよりも、実習やさまざまな就労体験を経て、日々、仲間とお互いに頑張ったことを分かち合いたいという想いが強く、周囲の仲間の存在が心の支えになつていて、日々感じられた。やがて、ヒソップ工房のように感じられた。やがて、ヒソップ工房に通いながら、月の半分を仲間と共に養鶏会社へ出向いて働くようになり、そのグループリーダーとして現場でのさまざまな対応や社員さんとの繋ぎ役として働くようになつた。一歩ずつ自信を取り戻し、高め、自治会や本人活動の会においても、意見や提案を発表することが多くなつて

自分の想いを受け止めてくれる人……。



大丈夫…

ヒソップ工房 副施設長
向井 由祈

ことばひろい 第9回

での暮らし、安心して働ける日中活動の場が与えられた。そのことで、Tさん自身の生活も大きく変化していく。

これまで叶えられなかつた本人の想いが少しずつ実現していく体験をし、さまざまな生活力を身につけていった。近所での買い物、趣味の刺し子やジョギング、レンタルビデオショッピングやバスに乗つていつた。しかし、同時にいつも心の中に「誰か」を求めているように見えた。一緒に出かけてくれる人、自分の話を聞いてくれる人、自分の想いを受け止めてくれる人……。

今はまだその途上だが、最近になつてようやく徒歩での通勤ができるようになり、心配すると、「大丈夫だよ！」と明るく返事をしてくれるまでになつた。そればかりか、私自身が忙しそうにしているのを見て、「向井さんは大丈夫なの？」と声をかけられることがある。

Tさんの人柄に触れながら自分自身の在り様を振り返る日々。それでもなお、互いの支え合いに向かつて、そして自分自身に向かつて「大丈夫」と語りかけることに希望を見出す。Tさんとの出会いに感謝しながら。

いつた。

「カナンの園に寄せる想い——感謝」

聖書において「山」はしばしば特別な場所としてあらわれる。

神がアブラハムに息子イサクを犠牲として献げるよう命じたのはモリヤ山であるとされるし、モーセが十戒を授かたのがシナイ山であることはあまりにも有名。

最後の審判の時「主は御足をもつて」オリーブ山に立たれるとあり（ゼカリヤ書）、

またこの山は主イエスが十字架の出来事の前に捕らえられた場所だともいわれている。

「山」は神と出遭うための、あるいは託宣を受けるための特別な場所、そういうても過言ではないだろう。

現代に生きる我々にもそんな場所が必要なのではないだろう

か。時間に追われる毎日だからこそ、勇気を持つて日常から離れ、

自らの生を俯瞰するための場所と時間が。それは人によつては「山」

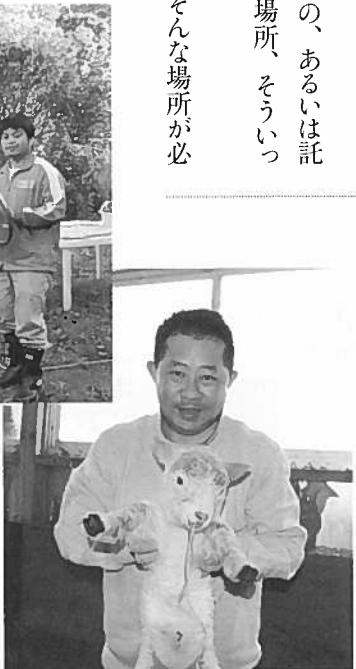
以外の場所であるかもしれないし、祈りのひとときかもしれない。

趣味に興じる時間である場合もある。いざれにせよ、自己の生を見つめ直すための（神の声に耳を傾けるため

の）、それぞれにとつての「山」という場所や時間が必要だと信じている。

わたしにとつてそれが奥中「山」である。豊かな命を育むために、自然やこの地の人を通じてさまざまな恵みが与えられる場所。その意味で奥中山・カナンの園は、これからもわたしにとつての「約束の地」であり続けることだろう。感謝をこめて。

（立教大学チャップレン 八木正言）



立教大学奥中山ワークのメンバーと。

子羊と共に。

（立教大学チャップレン 八木正言）

第41回カナン祭（さんあいカナン祭）開催される

今年で41回目となるカナン祭は、これ

でした。

までの形を変え、会場を三愛学舎とし、また、三愛学舎卒業生も多く、同窓会のような雰囲気もありました。職員も懐かしい卒業生と出会い、参加者全員が楽しい時間を過ごすことができました。即売の収益金の全ては、「いわての学び希望基金」に寄付し、後日、生徒代表が県庁の復興局に届けました。

三愛学舎在校生によるステージ発表、各作業科・PTA・地域の即売の他に、

カナンの園の各事業所の即売などもありました。生徒たちのつくった味噌や手づくり作品、畑でつくったジャガイモ等は、売り子の生徒たちの大きな声に誘われて

か、短い時間で完売することができました。奥中山学園からは、屋外での遊びコーナーのほかに、1週間後に学園で始めることになつていた子育ち・子育ての応援スペース

「るんだ・るんだ」が出前し、絵本の読み聞かせ、バラ一ビーズ、おもちゃコーナーなどが子どもたちで大賑わい



アドナイ・エレの出店の様子。



全体合唱では体育館いっぱいに歌声が響きました。

（三愛学舎 上路智大）

局に届けました。

当日は、地域の方々が多く来場し、また、三愛学舎卒業生も多く、同窓会のような雰囲気もありました。職員も懐かしい卒業生と出会い、参加者全員が楽しい時間を過ごすことができました。即売の収益金の全ては、「いわての学び希望基金」に寄付し、後日、生徒代表が県庁の復興

編集者

社会福祉法人カナンの園
〒〇二八五二三三 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七
☎〇一九五三六一〇二六

●お知らせ

●—クリスマスフェア開催

となんカナンのCaféおーでんせでは、12月にクリスマスフェアを開催します。となんカナンの手芸課で手づくりの羊毛クリスマス雑貨に囲まれて、おいしいお菓子を楽しめませんか。詳しい日程や内容はカナンの園ホームページで紹介します。皆さんに素敵なクリスマスをお届けできるよう企画しています。ぜひ足をお運びください。

●お問い合わせ先——となんカナン

TEL 019-681-3004

FAX 019-637-2601

E-mail／tonan-c@canaan-jp.net



●—「シュトーレン」販売開始

お菓子好きにとってクリスマスといえばシュトーレンの季節といつても過言ではありません。白く雪化粧した中には洋酒に浸けたフルーツがたっぷり。甘さや香りを楽しみながら少しづつスライスして食べて、クリスマスまでのカウントダウンを楽しむお菓子です。数量・期間限定の完全予約制です。お早めにご注文お願いします。

*カナン市場でも取り扱っております。

価格1930円

●お問い合わせ先——カナン牧場

TEL 0195-35-3505 FAX 0195-35-3145

E-mail／c-farm@canaan-jp.net



あとがき

年3回のペースでお届けしているカナンの園機関紙。発送作業が終わるとさまざまな形で反響をいただきますが、その中でも寄付の振込用紙に書かれた一言は、直接的なお支えをいただいている方々だけに気を留めて目を通すようにしています。大きな励ましをいただきことが殆どですが、中には高齢となられて今回が最後という趣旨の文もあります。40年の歳月はこのような方々を抜きには語れないことを身が引き締まる思いで受け止めています。

さて、今号は、前号から始めた「みんなのカナン」の雰囲気を誌面全体に広げたく、多くの寄稿をお願いする形としました。快くお引き受けくださった方々にこの場を通じて感謝を申し上げると共に、多くの方々との出会いと交わり、そしてお支えの中で生かされているカナンの園を改めて感じることができました。私たちの感謝の気持ちを誌面から感じていただければ幸いです。（MS）

Scope & Spot



ボーダレスアートクラブBAC仙台というアート活動を支援している方が、ここ数年で出会った岩手・宮城のアート作品の中から制作・販売する2014年のカレンダーの13枚の1枚に、村塙政二さんの作品「銀河鉄道4」が選ばれました。仕事にアートに毎日頑張っている村塙さん、凄いですね！カレンダー購入希望の方は「北の風」まで。

TEL 0195-35-3811

1部1500円

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンの園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

カナンの園法人本部

〒028-5133

岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7

TEL 0195 (36) 1026

FAX 0195 (36) 1027

郵便振替 02330-6-6631

ホームページ

http://www.canaan-jp.net
E-mail/honbu@canaan-jp.net

社会福祉法人カナンの園

福祉型障害児入所施設 奥中山学園

☎0195-35-2314 · FAX 0195-35-3406

生活介護事業所 小さき群の里

☎0195-35-3080 · FAX 0195-35-3080

共同生活介護事業所 ののさわ

(ケアホーム1~6)

☎0195-35-2232 · FAX 0195-35-3405

生活介護事業所 ヒソップ工房

☎019-646-8581 · FAX 019-646-8582

共同生活介護事業所 HANA

(盛岡地区ケアホーム1~5)

☎019-646-8581 · FAX 019-646-8582

生活介護事業所 シャローム

☎0195-35-2883 · FAX 0195-35-2884

就労継続支援B型事業所 ウィズ

☎0195-36-1120 · FAX 0195-36-1121

多機能型事業所 カナン牧場

☎0195-35-2583 · FAX 0195-35-3145

共同生活介護事業所 美空

(ケアホーム1~10)

☎0195-35-3844 · FAX 0195-35-3840

居宅介護事業所 れもん

☎0195-35-3844 · FAX 0195-35-3840

多機能型事業所 となんカナン

☎019-681-3004 · FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎（特別支援学校・知的）

☎0195-35-2231 · FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。